

### 第3回魚津市総合計画審議会 議事録

【日 時】 令和2年3月26日(木) 15:00～17:05

【場 所】 魚津市役所4階委員会室

【出席委員】 20名

井出委員、上野委員、浦田委員、大崎委員、大澤委員、柿本委員、河内委員、川戸委員、木下委員、島津委員、中野委員、南部委員、長谷川委員、稗島委員、淵上委員、吉岡委員、吉森委員(代理:大野副理事長)、米澤賢委員、米澤陽委員(欠席:石塚委員、大森委員、中村委員、濱住委員)

【市当局】

村椿市長、四十万副市長、畠山教育長、川岸企画総務部長、矢田民生部長、武田産業建設部長、宮野産業建設部次長、南塚教育委員会次長、広田上下水道局次長(事務局)赤坂企画政策課長、戸田企画政策課長代理、石坂主査

15:00 開会

**事務局** ただいまから第3回総合計画審議会を開会します。

机上に配付した資料の中に委員名簿がございますが、24名の委員のうち4名欠席との連絡をいただいております。また、新川青年会議所の理事長交代により吉森様が委員に就任されており、本日は大野副理事長が代理出席されています。それでは会議の進行は清水会長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

5:48

**会 長** 皆さんこんにちは。本日は15時から17時までとご案内があつたと思いますが、新型コロナウイルス対策ということもあり、早めに終了できればと思います。

議事は2つあり、特に(1)「第5次魚津市総合計画の主要な課題(案)」を主なテーマとして、皆様のご意見をお聞きしたいと思います。資料1-1と1-2について説明をお願いします。

**事務局** 資料1-1、資料1-2説明

**会 長** これまでの意見をふまえた魚津市の主要な課題、将来都市像、基本理念といったことに関する説明であつたかと思います。それ以外にも総合計画全般に関することでも構いませんので、皆様から発言いただきたいと思います。本日は中野委員から順にお願いします。

(以下、会長の次の発言者指名の発言は省略します。)

**A委員** 課題に挙げられている農林水産業の振興とは具体的にどのようなものか。

**事務局** 具体的な内容はこれから策定していくことになりますが、現在の第4次総合計画の中でも農業の振興、林業の振興、水産業の振興を施策として掲げており、これまでの市民意識調査やタウンミーティングでは例えば農業の後継者不足や水産業の漁獲高減少などのご意見をいただいております。

新たに出てきたというよりも、これまでも課題であり、引き続き取り組んでいくべきものと考えています。

**B委員** これまでの発言と重なる部分もあるが、世の中で起こっていることを自分事としてとらえて、他人任せにするのではなく、市や県や国に何かしてもらおうのではなく自分でどう行動していくべきか、ということが求められる時代だと思う。

選挙を控え、市議のなり手不足といったことも言われているが、これも自分たちが暮らすまちのことを他人に任せてしまっている結果ではないか。

前回の市長の発言にもあったとおり、自分たちの次の世代、子供たちの世代を見据えた持続可能な地域づくりを考えていかなければならない。

子供たちにも、周りの出来事を自分事としてとらえ、自分で何ができるかを考えて行動していくことを伝えていくことが必要。活躍する場が魚津ではなく世界になるかもしれないが、そういう人材がこれから求められると思う。

そういうことも見据えて、個人、家庭レベルから、学校、市政といった大きな枠組みも含めて、少しずつ皆さんがアクションを起こしていくことが大事。

**C委員** 住まいは今離れているが地元が港町なのでたてもん祭りに参加している。人手が不足している。高齢者世帯ばかりで、年金から寄附をいただいて賄っている状態。市からも助成してもらっているが、将来も続けられるだろうかという不安がある。せっかくユネスコに登録されたからには維持していきたいという思いが強い。

自分の子供にも祭りの準備などに参加させて意識づけをしているが、子供の数が少ない。諏訪町、港町以外の子供にも見学や体験をしてもらって、市全体で支えていけるような環境にしていけたらと思っている。

**D委員** 1人暮らしの高齢者、老人会や地域で働きかけても出てこられない方も多い。そういった世帯は子供が家を出てしまい、いずれ空き家になり、取り壊すにも修繕するにもお金がかかる。市からの助成制度もあるが金額が限られており、なかなか進まないのではないかと思う。空き家が放置されると動物が集まったり、ゴミの不法投棄など周りの人に迷惑がかかる。

若者が働いてみたいという会社が少ないように思う。やはり子供たちが将来ずっと住みたいという魅力あるまちづくり、お年寄りも安心してくらせるまちにしていってほしい。

**E委員** 魚津の将来都市像として何がよいか考えた時に、「集まろう、つながろう」という都市像がよいと思う。それぞれの強みを活かしながら、例えば年配者と若者が一緒にまちを作っていく、会社と家族関係の中間のような市の形を目指すのがよいのではないかと。組織的なイメージ。

何かを作る時に、これがある、これとこれがつながるというマインドマップというものがある。魚津市でも、この人とこの人がつながり、別のところにつながっている人とまたつながっていくという形を市として作っていければよいと思う。

職業柄、情報発信に関して、今コロナで大変な状況になっている中、情報の力を皆さんも感じられ

たのではないか。例えば、トイレットペーパーがなくなったり、ニンニクがすごく売れたり、これらは全てデマだが、みんなそれに踊らされてそれに従ってしまう。情報はすごく大きな力を持っていると言える。

若い人と経験者とのコラボによる情報発信をしていけばどうか。当社では魚津高校放送部への指導や地域おこし協力隊の池田さんに番組に携わってもらっているが、このように若い人や目を引く人を先頭に立てて、情報発信していくことは市内にも市外にも有効だと思う。

動画を作ってYoutubeにアップしたり、Twitterを活用したりするのも1つだが、高校生に協力してもらい、学校新聞とか今もあるかわからないが、QRコードを置いて、伝えたい情報にアクセスしてもらおうとか。

先ほど祭りの話が出たが、当社としても祭りはメインのものでずっと続いてほしいと思っている。人手不足ということで、ではどういう人に来てほしいか、来てほしい人のところに情報を届けて来てもらうということをししないと、人は減っていくばかりである。

農業や林業を営む若い人がいないということについて、仕事が不明確ということがあるのではないか。企業であればネットで初任給などがわかるが、農業や林業は収入や労働時間がどれぐらいなのか、繁忙期はいつなのかといった具体的な情報が見つけづらい状況である。具体的な情報がわからない仕事を若い人は好まないと思う。また、インターネット上にただ載せるのではなく、若者が見ているところに載せることや、例えば農業はやりがいがあって生活にも困らないというようなイメージを、高校生に伝え、発信してもらおうようなつながりを作れるとよいのではないか。若い人は発信力や行動力はあるが、情報の正確性の部分で不安なところがあるので、そのあたりを経験豊富な人がアドバイスするなどしてサポートするような形がよいと思う。

若い親世代、自分も親だが、仕事と家事で精いっぱいであることに携われないという状況である。学童は19時までだが会社は19時過ぎるのはざら。ワークライフバランスという言葉が当たり前になってきているが、実際のところはどうか。市としてもワークライフバランス、魚津市のみんなはこうやって生活していこうよっていうものをイメージづくりした方がよいと思う。

前回の審議会での意見で、魚津は小さな組織が数多くあって多様な仕事をしていて、そういったものが集まった魅力的なまちであるという話があったかと思う。仕事の仕方もいろいろあるが、自分はサラリーマンで働いているとやはり残業があって、いくら自分で仕事を仕上げたうえで帰っているとしても、残業の固定概念というか、この人残っていないよねという見方をされたり、逆に仕事をしているだけで子供預けっぱなしでかわいそうという意見もすごくいただく。子供を持ちながら働いているやる気のある人が、そういう固定概念みたいなものに苦しむことが結構あるのではないかと思う。横のつながり、人のつながりで、知らない人に子供を預けていくわけにはいかないが、例えば市が学童の指導員の研修をするような仕組みがあれば、それを活用して子供の預け先の幅を広げることで、多様な働き方やまちづくりへの参加もできるのではないか。

ここからまとめになるが、市に具体的にしてもらいたいこととして、市のイメージづくり、こういう働き方をしよう、こういう暮らし方をしようという発信が不足していると思う。もう一つは子供の預け先、もっと市や地域の取組に関わってほしい人を活かそうとするなら、そういったことができる仕組みにしてほしい。それから初めに言った情報発信、今は年配の方でも出てこられない人もいたりとか、そういったチーム同士の橋渡しとかは市でもしてもらえればと思う。

**F委員** 先ほど空き家の話が出たが、シルバー人材センターで空き家の木を伐採することがある。立派な木でも空き家で管理する人がいないため、隣近所の迷惑を考えてやむをえず伐採するケースがある。空き家といっても、広くて豪華でお金をかけている家も多く、空き家にするにはもったいないようなものも多い。田んぼで言うと放棄地ではなくて休耕田のような。何とか有効な使い道がないものかと思っている。

**G委員** 青少年の担当をしており、毎年8月に子供100人ぐらいでミラージュランドと水族館を結ぶ地下通路に絵を描く事業を実施した。自分自身は県外に出て魚津に戻った時に魚津の良さが分かった。子供たちにもいろんな経験をさせてあげたいと思っており、佐渡島での交流事業も計画しているので市ともまた相談させてほしい。

総合計画の中で子供たちの育成についてこういうことを考えているというのがあれば、団体にも持ち帰りたいと思うので聞かせてほしい。

**市長** 個別具体的な事業の取組の話は、この場での議論とはまた別でさせていただきたいと思います。今、皆さんがおっしゃった意見に対する考え方や方向性みたいなものを最後に全部話していきますので、それまでちょっと待っていただいていた方がいいでしょうか。

**H委員** 前回の審議会で質問した空き家調査の結果について、参考資料2として出してもらった。これを見ると、5年前の前回調査と比べて150戸ほど空き家が増加しており、特に困っている空き家も38戸から69戸に増加している。1年あたり131戸の空き家が発生しているとのことである。これを我々がどうこうできるものではないかもしれないが、できるだけ少なくできないかと思う。

小学校の統合について、コミュニティができない、されていないというのが実態。地域、学校、PTA、批判ではないが我々から見るとPTAの皆さん元気がないように感じる。仕事もしているので地域のことは関われないというようなことをよく言われる。統合前であれば、それぞれの小学校の歴史や文化があったが、通学距離や学校の歴史の浅さ、今は過渡期かと思う。地域振興会とPTAで膝を交えて意見交換をするような場を設けたいと思っている。働き方改革等もあるが、理解しあえる方向を見出していきたい。

**I委員** 消防団の研修に参加。全国的に見て富山県や魚津市の装備は進んでいると感じた。自主防災との連携についても、全国的には自主防災組織はまだ途上にある地域もある中で魚津市は比較的進んでいる。大規模災害時には携帯電話も不通になるので、無線通信が不可欠。消防庁の助成制度なども活用して地域に必要な資機材を整え、それらを運用する訓練も併せて実施していく必要がある。

**J委員** 魚津市でもフィットネスクラブやマラソンブームで日々スポーツをしている人はたくさんいる。日本のスポーツは学校体育から始まり、運動ができる子はスポーツで高校や大学に進んでプロになるという道があるが、そういうスポーツではなく楽しむスポーツ、これを広げていかないことには魅力ある魚津にはならない。総合型スポーツクラブの全国の総会に参加して話を聞くと、NPO法人

で運営しているが補助金がだんだんなくなって苦しい状況のところもあれば、地域の皆さんと一緒に  
なって年少者から高齢者までいろいろな教室を開いてうまくやっているところもある。魚津市もスポ  
ーツで元気にしてほしい。

来年度から認証登録制度が始まる。指導者の教育にもお金をかけて、しっかりとしたクラブ運営が  
できる組織が魚津市にもいくつかあって地域にくっついて、皆さんと一緒にまちづくりをして盛り上  
げていければと思う。

**K 委員** 資料 2 - 1 の P17 の市内宿泊者数の目標値が平成 26 年度 28 万 8 千人を令和 2 年度 37 万 6  
千人となっているが。

**事務局** 市の観光振興計画と同じ目標値としました。計画によって異なる目標値設定にならないよ  
うにしています。

**K 委員** 8 万 8 千人増やすには 100 室以上のホテルが 1 棟必要だ。全く無理な数字だと思う。

それから、人口が減って 2 万 3 千人のところを何とか 3 万人にとどめたいという目標でやっておら  
れるが、高校を出て大学に進学して戻らないところに問題がある。市内や県内に就職したいところ  
がないということかもしれないが、奨学金の返済免除など優秀な人材を地元を引き寄せる、帰りたくな  
る施策が大事だ。また、大学に進学する前に、地元に戻って活躍する人の話を聞かせるような講座を  
開いて、なぜ地元に戻ってきたのかを話してもらおう。魚津は田舎だから都会に憧れて出ていくの  
かもしれないが、地元の良さを若い時によく話をすることも必要ではないか。

民泊に関して、都会のマンションを転用するようなのは反対だが、空き家の活用策としてはよいと  
思う。いくつもの空き家を 1 つの宿泊施設として運用する企業も出てきている。観光客を増やす意  
味でも、空き家を少し改装して事業化すれば面白い取組かと思う。まちなかで宿泊してもらえば、食  
事も周辺でしてくれる。

交流人口に関して、今はコロナで止まっているが、海外からの観光は今後も増える。人口が減る中  
で交流人口、観光人口を増やすには海外からの誘客が必要。魅力発信をもっともっと進めていか  
ないといけない。お金も落ちるし、産業として相当の地位占めていくと思う。それほどお金か  
けなくてよい施策だと思うので、行政当局にはぜひがんばってもらいたい。

先ほど SNS の話が出ていたが、中央通りに有名なユーチューバーが来ていったが、そういう  
ところにお金をかけると魚津市の発信につながっていくと思う。我々年配者は SNS 得意  
ではないが、年寄りも情報発信するというような流れにしてもらえれば。

**L 委員** 魚津の基盤は海と山。こういうところは日本、世界にもない。魚津を再生するのは  
観光、環境、扇状地も素晴らしいし、伏流水も活かす。ここに魚津の活路を見つけるしかない。  
観光が盛んになればおのずと人口増えるぐらいのつもりで、それ一本で集中して環境を  
良くするべき。総合計画を考えるにあたってそれを第一優先にして変革していけば  
よいと思う。

市民一人一人が総合計画の内容を理解してもらえるかという非常に難しい。日本中  
で言われている SDG s の 17 テーマに結び付けると理解しやすいのではないか。国の  
予算をうまく活用することに

もつながるかもしれない。SDGs のテーマに沿った戦略を立てて、チームを組んで取り組んでいくなど日本の中で一番先を走るぐらいでやってほしい。

**M 委員** 交流人口拡大のためにりんごオーナー制度を始めたが、そこでりんご農家の後継者問題、後継者がいなくてりんごの木を切っているという現状を知った。魚津は、りんごやもも、ぶどうといった果物がとてもおいしいが、それを知らない人も多い。そういう良いところを知ってもらって、魚津に一度来てもらえば素晴らしい海や山、ここに住みたいと思う人も出てくるかもしれない。そういう人を増やしたいという思いで目標高くやっている。昨年よりもりんごの木を増やして 75 口募集したところ、東京から 2 件、京都から 1 件申し込みがあり、SNS による応募だった。今の時代 SNS の活用は大切。市長のお力も借りなければならないが、台湾の人に魚津に来ていただき、魚津の良さを世界に発信してほしい。

観光で人が来ると、その地域の良さを発信してもらえる。人口増加につながっていくのではないかなと思う。資料の中で人口減少の図を見てショックを受けているが、人口が増えればコミュニティの弱さや子供の問題が吹っ飛ぶ。私たちは市とタッグを組んで、難しいかもしれないが人口増加するような地域にしていくために、魚津を愛し、そういうファンや仲間を増やしていきたい。

**N 委員** 社会福祉協議会で地域を基盤に活動をする中で地域コミュニティ、学校の統廃合のことはよく言われる。いろいろな課題がある中でかけ合わせていくことが大事ではないかなと思う。また、未来を担う子供たちに参加してもらわないといけない。福祉の中で福祉教育が大事と言うふうに言っているが、地域を好きだと思ような教育を小学校あるいはもっと早い段階で、ミラたんやうおっしゃくも使ってわかりやすく課題を伝えて子供たちも一緒に考える。10 歳の子も 10 年後には 20 歳になる。その時に自分も参加したなと思えるような機会を作ることが大事かなと思う。

また、高齢化という言葉がいくつか出てくるが誰を指すのか。同じ高齢者というくくりでも、70 代、80 代、90 代では世代も違うし、かなり思いが違うというのを肌で感じているので、その辺ももう少し見ていかななくてはならないと思う。

SNS の活用の話が出ていたが、私たちが日頃接している 80 歳 90 歳の人にはなかなか使わない。一方若い人は一人でも楽しく過ごせる。人と直接つながらなくてもよくなっている。福祉でも ICT を活用していかなければと思うが、いろいろ課題もあるなと思って聞いていた。

**O 委員** 友人がボランティアでゆかいなばあばという活動している。乳幼児と親、祖父母を対象に自然の大切さ、自然遊びを通じて五感を澄ませて育てていくということをしているグループである。少子化ということでたくましく優しい人間を育てていかなければならない。そのためには中学生までに自然体験を重ねることが大事という調査結果もある。新年度から市の方で、総合公園で 0 歳児、乳幼児と親を対象にした外遊びを月一回行うことになったと聞いている。そのメンバーに私も誘われて、管理栄養士として離乳食や食事などの相談に応えられればと思っている。

その友人の方は、そういう活動をしていても発信しなければ皆さんに伝わっていかないので、発信力が大事だと言っていて、今まで行ってきたボランティア活動についても Facebook で紹介している。

今後も Facebook で発信されると思うが、さらに広く発信するためにどうすればよいか知恵を借りられればと思う。やはり魚津で子育てするのがいいなと言うふうにしていきたいし、それが定住にもつながると思う。

それから、市内のラーメン屋さんが後継者がいなくて閉店したが、縁もゆかりもない人が後継者になり店を継いだということがあった。他にもそういう意欲のある人はいるのではないかと思う。ネットワークがないのでそういう情報がなかなかキャッチできないけれども、後継者がいない店とそういう意欲のある人をうまくマッチングするようなことができないか。私の周りでは生命保険会社に転職するママさんが多い。時間が自由になるからだと思う。そういうママさんたちの力をうまく活かせば魚津の活性化にもつながるのではないか。

**P 委員** 市の主要な課題、どれも大事だと思う。アメリカのリンカーン大統領の「人民の人民による人民のための政治」、前の審議会でも木下委員もおっしゃっていたが、ケネディ大統領の「国があなたのために何をしてくれるかではなく、あなたが国のために何ができるかを考えよう」、市民の一員としてそういう気持ちが大事である。「私たちがこういうことを一生懸命やっているのだから、市はこの部分を応援してほしい」というふうにならないと。私たちの地区では、道下まちづくり協議会で毎月1回老若男女というかほとんど50歳以上で50~60人集まっているが、やはり30代や高校生の方がいない。三世代交流が大事でそれができるような企画を。例えば先日新聞に出ていた金山谷の獅子舞、小学校はなくなったが獅子舞は続けようということで行われている。続けることはすごく大変である。私の町内にも獅子舞保存会があり100年以上続いている。獅子舞になると子供、親、祖父母、普段あまり見ない人も来られる。世話をする人は大変だが地域コミュニティの維持につながっている。

一次産業について、自分も農家で米作りをしている。山の林業関係者、我々は中間の水田の世話、そして漁業関係者、こうした人たちが一生懸命やっているからこの富山湾や立山連峰のきれいな景色があるのだと思う。私たちには当たり前の景色で何が観光資源なのかと思うかもしれないが、県外から来られた方にありそドームの展望台からの景色を見せるとすごく喜ばれる。一次産業の振興のため市と協力しながら進めていきたいと思っている。

**Q 委員** 人口の流出をいかにして止めるか。空き家対策もそうだが、魚津市は大規模な住宅開発はできないので、狭い空き地でもいかに若い人たちが安価で家を建てて定住できるかということを考えてもらいたい。滑川市や黒部市への転出を止めていただきたい。土地のことに行政は介入できないと(市は)言われてきたが、その積み重ねが今の形になっていると思う。それを何とか突破していく方法を考えていくことが大切だと思う。定住に関連して、地域コミュニティもすごく大切だが、今の地域振興会の在り方は各地域によって考え方などにすごくばらつきがある。地域振興会のことに関して、市が地域に丸投げのような形にしてしまったこと、地域の考え方はもちろん大切だがある程度の基本路線というものを行政がしっかり示していかないと。ばらつきがあると偏ったやり方になり、新しい人が入ってこない。やはり地域振興会を担っていく人を育てていかないと良い地域コミュニティはできない。そういった人育てが大切だと思うので、よろしくお願ひしたい。

**R 委員** 観光ボランティア、水守ガイドをしていて年配の人たちと関わることもあるが、最近中学生

と話していて感じたことは、魚津の良さを知らないのだなということ。知っている子は知っているのかもしれないが。学校教育、ふるさと教育に今後力を入れてほしい。魚津浦の蜃気楼が新聞に載って御旅屋とかそういう言葉が出た時に、魚津城があったという話をしたがあまり知らなさそうな反応だった。歴史を過去のこととしてしまうのではなく、魚津には山城が5つあり、海と山が近く素晴らしい景色があるということをお子たちに伝え、魚津の良さを知ってもらい、根付かせること。そのために、県のとやま観光創造未来塾認定ガイドの中級、上級の講座の話をお聞くと観光というのはその土地のことを市民や学校の教育にもつなげてその土地の良さを伝えるという役割もあるということで、水守ガイドでは水循環、観光ボランティアでは山城案内など協力させてもらっている。私たちの年代が子供たちにそういったことを話して伝える機会を作ってもらえないか。子供にとっては親年代ではない、異世代交流という意味で魚津浦の話や金が採れたという話をぜひ子供たちに知らせて、いかに魚津にそういう資源があるかということを知ってほしいと思う。

それから、民泊の話、空き家対策として所有者が使ってもいいよということであれば、素泊まりでよいので何軒かをつないで、魚津市出身の方で5泊も6泊もして海にも山にも行きたいという方がいらっしゃるので、そういう方たちにこんな民泊があるよということでPRできたらよいと思う。海の近くと山の方、その中間にそれぞれ何軒かずつあって結ぶことができればよいと思う。

魚津市は他に負けないものがある、住むことがブランドになるような市になると思うので、そういうことを念頭に、それを子供たちに伝えていくことが重要である。

**S 委員** 今日出席させていただいて、各委員の方それぞれの立場からいろいろな意見をお聞きしてとても勉強になった。今後ともよろしくお願ひしたい。本日はありがとうございました。

**会 長** ひと通り発言いただきました。最後に市長から皆さんの発言を受けてお話しいただきたいと思いますが、その前に議題2に入りたいと思います。議題2は「魚津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の延長について」ということで、現戦略に所要の修正を加えて1年延長するものです。事務局より資料の説明を簡潔にお願いします。

**事務局** 資料2-1、2-2、追加資料（資料2関連）の説明

**会 長** ご理解いただけただけでしょうか。ただ今の説明のとおり進めてまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」という発言あり。）

**会 長** ありがとうございます。以上をもちまして議事を終了したいと思います。貴重なご意見をありがとうございました。

**L 委員** 1つよろしいですか。新しい総合計画の中に、市役所の庁舎をぜひ入れてもらいたい。市内の小中学校は耐震化されているが、市役所のIs値0.3であり震度6強ぐらいで倒壊する。災害

の時に行政が潰れてしまっただけではどうしようもない。そう考えると 2021 年度からの計画に新しい市庁舎のことを、場合によっては魚津駅を庁舎にしてもよいと思う。ぜひお願いしたい。

**市長** 今日皆様どうもありがとうございました。今から皆さん一人ひとりのお話についてしゃべっていきたくと思います。17時を過ぎてしまうかもしれませんがお許しください。

(A 委員) 農林水産業の振興ということ 森林を守っていくことが川や海を守っていくことにつながっていくと思います。そういう意味で魚津の自然環境をどうやって守っていくかということがとても重要だと思っています。森林そのものは、森林環境譲与税という財源を入れて山の整備に入っていくということがようやく始まりました。そういった財源を活用しながらどういった取組ができるかということやっていきます。

(B 委員) 自分事として物事をどう捉えていくかというご指摘がありました。大切なのは、何を共通の目標に皆さんが自分事として取り組んでいけるかということだと思っています。今日の皆さんのご発言の中で私が思うのは、みんなが共通に思っていくこととして、1つは“子供”です。もう1つは“魚津の自然環境をどう守るか”です。3つ目は“安全な地域にするための災害とか、実際に起きた時にどう助け合うか、そういうシステムをどう作るか”これらは年代を問わず共通だと思っています。子供を中心に据えるということは、子供のすぐ近くにいる親や祖父母、地域の人も巻き込むことになりしますので、そういう意味で子供を真ん中に据えればどうかというふうに思っています。環境は言うまでもありませんよね、魚津の魅力をどう街づくりに活かしていくか、それが観光にもつながります。そして、安全・安心という意味での災害対策。この3つを皆さんが自分事としてとらえられるように考えていくことが、新しい総合計画の中で目玉だと思っています。これが皆さんの発言にもつながっていくと思いますが続けてしゃべっていきます。

(C 委員) たてもん祭りの話、人が減って維持できないということ。これまでは決まった地域の伝統文化ということで支えてこられました。この仕組みではなかなか継続できません。ですので、どうやって裾野を広げていくかということで、ユネスコ無形文化遺産登録や学校統合を機会に、支える子供たちのエリアを広げていこうという取組をしていますが、これをもっと広げて市全体の宝として未来につなぐということをやっていく必要があります。

(D 委員) 空き家の活用策はとても重要だと思っています。助成制度もちろんですが、空き家をどう活用するかを観光面だけでなく、若い方の活動拠点でも結構ですし、近くでは朝日町の例もあります。みんなでどうやって活用するかということを考えていかないと、根本的な解決、減少にはつながらないと思います。若い人が働きたいと思ってもらえる魅力的な働き場所が重要です。魚津の中小企業では新年度から拡張の動きが出てきます。また特に女性が働きやすいサービス業の事業所を1つでも2つでも誘致したいと思っており、新しい総合計画の中で掲げて頑張っていきたいと思っています。

(E 委員) とてもよいキャッチフレーズ、「集まろう、つながろう」というのは根本だと思っています。1人の力や同じジャンルの人たちでは発展できません。いろんな価値観を持った多様な人、いろんな年代の人が集まってつながる、こういった仕組みをどうやって作るかということが重要なので、そのイメージを大切にしたいという思いで聞いていました。それから高校生と一緒に情報発信していく取組も具体化できればと思います。

(F 委員) 空き家問題、活用できる空き家はいっぱいあると思います。問題はどうすれば所有者が気

持ちよく提供してくれるか、ここをどうアプローチするかだと思っていて、そこを考えていきたいと思います。

(G 委員) 子供たちにいろんな経験をさせる事業をどうするかということ。地域全体で子供を育てていく、0 委員もおっしゃっていた優しい気持ち強い心を持って生きる力を付ける、そういう子育てを社会全体でどうやってできるか。学校だけでは無理です。そこを総合計画づくりの中で皆さんと考えていきたいと思っています。

(H 委員) 地域コミュニティづくりをどう強めていくか。若い年代の人たちに地域コミュニティのことをどう自分事にしてもらうかがキーポイントだと思います。そのためには、若い人たちに興味関心のあるテーマを主体的に決めてもらうような組織づくりも必要かと思っていますので、そのあたりを皆さんと考えていきたいと思っています。

(I 委員) 消防・防災関係は、みんなが共通して目標にしていく分野にしたいと思っており、市では市内の企業との防災協定を強めていって、企業が持つ強みを活かして、避難所の環境をより良くしていくといったことを考えていきたいと思っています。女性の視点も入れていきたいと思っていて、新年度の人事の発表でも言いましたが、2つのプロジェクトを作ります。1つは新川文化ホールに子供の遊ぶ施設を県で作ってもらうんですが、そのプロジェクト。もう1つは、災害時の避難所の水準の上げ方、運営の仕方を考えるプロジェクトです。これも総合計画の中の大きな目指すべき方向になると思っています。

(J 委員) スポーツを活かした地域活性化ということを新年度予算に組み込みました。これは市の掛け声だけではダメなので、そういうノウハウがある大きな企業のスポーツ部門と連携して、競技スポーツとは違った視点でやっていきたいと思っています。

(K 委員) 何点もいただいたのですが1点だけ、SNSの活用、ユーチューバーなどの人材を活用した情報発信、実際にやれる取組として考えていきたいと思っています。

(L 委員) 海と山が魚津の最大の自慢だというのはその通りだと思います。新年度では東山円筒分水槽を拠点に周辺環境整備を進めていきます。そこから上の方は洞杉の方に向かって、自然や水を活かして例えばトレッキングだとか、子供連れや外国人も楽しめるようなポイントをどう作るか、少し下の方では天神山をどうやって子供たちが遠足できる山にしていくか。海の方は魚津浦の蜃気楼が国の登録文化財となり、蜃気楼ロードが日本風景街道に登録されましたので、そこを基点にして取組をしていきます。もう一つこれは少し時間がかかりますが、松倉城址を国の指定文化財に登録してもらって山城の文化を拠点にしたエリアを作る、そうすると魚津は片貝のライン、海岸線、松倉城址で三角形で囲まれますので、そういった自然の文化を活かした魚津というものを作ると、そういうことを総合計画の中でも謳っていければと思います。

(M 委員) 台湾の大阪の領事館には話をしていますので、ぜひ台湾の方にりんごの木のオーナーになってもらいましょう。そして、台湾の方にも魚津の良さをアピールしてもらうことが地域や日本国内でも注目してもらうような動きになっていくと思います。

(N 委員) 地域コミュニティについてご指摘がありました。私は地域をつなぐバインダーは子供と災害対策だと思っていますので、そういったテーマでコミュニティを強めていくことをできればと思っていますし、子供と一緒に考えていく場というのはG委員の考えと共通していて、G委員は体験と言われましたが、小学校高学年や中学生で魚津を丸ごと学ぶような取組をすることで、大人になった時

にとっても良いと思います。単なるふるさと教育というよりは、地域を人のつながりを含めて学ぶというようなことをやっていければと思っています。

(O 委員) たくましく優しい心、生きる力をつけるというのは、先ほど申し上げた取組と共通だと思っていますのでしっかりやっていきたいと思ひますし、私も総合公園でのナップスの取組には非常に期待してひて、その展開が大きくなることによつて魚津の賑わひが大きくなるのではないかと思ひてひて、そのためにも新型コロナが早く収束してほしいという思ひでひいます。

(P 委員) 一次産業を守ることが地域の自然、環境を守ることにつながると思ひてひいますので、ぜひそういった取組を皆さんとやっていきたいと思ひてひいます。

(Q 委員) 住環境の問題、おっしゃるとおりです。わかっちゃいるけど何もできないではおそろく進みませんので、若い世代に住んでもらえるような思ひ切つた住まいの支援というものを考へていきたいと思ひます。

(R 委員) 中学生が魚津の良さを知らないというご指摘でした。先ほど述べましたが、そういった子供たちが魚津を学ぶ取組をしっかりやっていきたいと思ひます。

(S 委員) S 先生には引き続き魚津の健康をよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

**事務局** 皆様本日はありがとうございます。事務局から1点お願ひがござひいます。本日の資料に意見用紙が入つております。将来都市像、将来都市像の考へ方を記入してくださいというものです。先ほどE 委員さんから「集まろう、つながろう」というフレーズも出していただきました。そういった魚津市のまちづくりにふさわしいイメージを皆様からいただきたいと思ひております。次回の審議会が5月か6月になりますので、できれば4月中にご提出をお願ひします。

これをもちまして本日の審議会を終了します。ありがとうございます。

17:05 終了